

(一) 当暮御仕廻金上納

御拝借金證文之事

一金三拾両也

右は此度御地頭所当暮御仕廻金上納之儀

差支候に付、書面之金子御拝借被成候処、相違

無御座、村方一同難有仕合に奉存候、且御返済

之儀は来卯年畑方金上納を以卯年七月十日

限、聊無相違御返納可申上候、右為後日御拝借

證文依而如件

下総国相馬郡河原代村

借主 儀右衛門 印

同 勇 助 印

同 岩 次郎 印

同 治郎兵衛 印

同 武左衛門 印

代官割元 木村藤左衛門 印

前書之通相違無御座候間、奥印仕候

三浦幸右衛門 印

中村保四郎 殿

(二) 大名の借用証 柳生但馬守借金證文

預り申金子之事

一金三百両也

右は此度巨那勝手向就要用、慥に預り申所実正也、為

此引当、来丑年収納米之内

一 米三拾石 柳生村 一 米三拾石 大保村

一 米五拾石 坂原村 一 米五拾石 高尾村

一 米七拾石 田山村 一 米七拾石 北大河原村

一 米五拾石 南大河原村 一 米五拾石 飛鳥路村

合四百石

右之通米切手相渡置候、然上は来丑十一月晦日限りに月九朱

加利足、元利致返済候は、右米切手御戻し可被下候、万

右日限、元利金返済及遅滞候は、御勝手次第、不及御断

右切手米御売捌被下候て、元利金御請取、其節過不足

之儀御算用可被下候、為後日依而如件

柳生但馬守内

文化十三丙子年十二月 元 奥 平右衛門 印

同 西城休左衛門 印

同 吉岡源左衛門 印

同 倉山 勝蔵 印

用人勝手方兼帯

藤田惣右衛門 印

家老 竹原 九八郎 印

同 松田 権大夫 印

立川金右衛門 殿

史料A

覚

此度無抛急用に付き、其村当酉年納米之内七拾俵相払、代金貳拾両先納請取申所相違無之候、年貢納之内にて皆済勘定目録記出、差引可有之候、但金主へ米渡之義伺不及申候、以上

明和二年酉十月

鈴木作兵衛 印

前書之通相違無之者也

星治兵衛 印

原文なし

史料B 先納金催促

此度飯嶋丈右衛門被仰付、其村へ被指遣御用之趣は、当益前、其村畑金納方過分に不足に付、取立可相納、若取立遲滞在之候ては、御取続差障に相成間、致出精、少も無油断取立之、前々相納候通之畑金、益前納之高、急度丈右衛門へ可相渡候、此段御意在之に付、如斯に候、以上

酉七月十九日

皆川常右衛門 印

磯子村 名主 磯右衛門

年寄共

史料C 惣百姓書付を以奉願候

此度、惣百姓御願申上候儀は、以前

御地頭所様御取続難儀被成候由被申聞

先納金御割付被成、惣百姓銘々

高割以寅年五両差出し、則其年

御勘定被成下候様に被申聞候得共、割返し

無之、又候卯の年五両、午の年三両貳分

三口合て金拾三両貳分、為先納金

無是悲(非)困窮之百姓銘々質物を入

高割銭借用仕、旁差出し候処に

今年迄一円、右先納金通り御皆済

時分にも御地頭様逼迫之由

被申聞、御割返し不被成候、然処、当

酉年之儀は、田畑日損に候、五穀共に

遺作、殊にかせぎ等無之、当時惣百姓

扶食暮し方日支と難儀仕候、依之

御年貢御皆済借出等無之候間、前々

先納金通り不残御皆済之差纏(継)

被成下候様御願申上候、左様無之

候ては一向に御皆済出来不申候

右之趣御地頭様へ偏に御願

可被下候、以上

明和一年酉の十一月四日

重右衛門 印

武左衛門 印 多郎左衛門 印 角右衛門 印 勘四郎 印

吉三郎 印 平十郎 印 利左衛門 印 清兵衛 印

伊三郎 印 次郎右衛門 印 多郎兵衛 印 (以下略)

御用人衆中様 (以下連印名省略)

史料D 米二十俵送り先変更の指示

当年、其村御年貢米之内貳拾俵、上総屋へ古借り渡し米之内、当分御扶持方米取続差支候、其上旦那御奉公御勤事に付、差支え御事共多候に付、此方へ近々右之米貳拾俵、船積み可致候、上総(屋)可渡候米之内貳十俵不足候て、名主・年寄・百姓難義に罷成候は、此方より右之分急度平六へ相对、少しも村方へ苦勞かけ申間敷候、為其依而如件

西十一月四日

伊藤文蔵

磯子村 名主、目付、年寄、百姓中

史料E

借用申金子之事

一 金四十八両 は 但し小判也
右之金子、御地頭勝手向入用に付、此度用金被申付候得共、村方に出来不申候に付、内縁を以御無心申、御弟子衆官金并御渡世金借り請、御地頭所へ上納申所実正也、返済之義は当九月十五日に金三両、同十一月廿日に金三両、来年巳の年十一月金三両、午年同断、未年同断、申年同断、酉年同断、戌年同断、亥年同断、子年同断、丑年同断、寅年同断、卯年同断、都合拾五ヶ年賦に相定、急度返済可申候、勿論御地頭より村方御物成之内にて引取、年々無相違相済し候様、御下知書頂戴仕候旨、少しも無相違相済し可申候、万一不埒致候は、何方迄御願被成候共、一言之義申間鋪候、為後日金子借用証文依而如件

星合治兵衛知行所

武州久良岐郡磯子村

宝曆十辰年正月廿一日

名主 磯右衛門

年寄 左佐衛門

同断 太 兵衛

立花検校御坊

長岡検校御坊

銀貳分三厘

小普請組妻木平四郎様御支配

星合源兵衛様御知行所

武州久良岐郡

磯子村 百姓代

(役名略、以下同)

栗木村 百姓代

栗木村 百姓代

田中村 百姓代

矢部野村 百姓代

峯 村 百姓代

相州桂村 百姓代

同州鴨居村 百姓代

訴訟人清兵衛煩に付、代徳兵衛奉申上候、

右相手八ヶ村百姓、去申閏十二月

從御地頭様先納金被仰附候処

村方にて出来不仕候由にて、私ハ金子用立

候様相頼み候に付、当酉年物成を以

十一月中、元利皆済可致連印證文

請取、用立申候処、右物成相渡不申

迷惑至極仕候、依之無是悲(非)御訟

奉申上候、御慈悲を以百姓被為召出

約諾之通り相渡候様被為仰付

被下置候様奉願上候、以上

願人

明和二酉年十二月 清兵衛 印

五人組

徳兵衛 印

御奉行所様

史料F 訴訟問題に発展

乍恐以書付奉願上候

浅草茅町貳丁目

家持 清兵衛煩に付

訴訟人 代 徳兵衛

一 先納金滞出入

金高

一 金貳百五拾壹両二分